

株式会社DSB情報システム



社内イベント「ウェルカム&フレンドシップ パーティー2018」の様子



(左より) 総合管理部長 長谷川 敦司 様
総合管理部 上席主任 高木 康裕 様
総合管理部 課長 田中 秀範 様

会社概要

- 本社所在地:〒135-0052 東京都江東区潮見2-9-15
- 従業員数:325名(2018年3月現在)
- 事業内容:証券、金融業界を中心にシステムの企画、開発、運用・保守までのワンストップソリューションを提供。証券総合オンラインシステム「Dream-S」、売買審査管理システム「TIMS」等を製品化し提供。
- URL:<https://www.dsb-is.co.jp/>

多い社員、「サテライトオフィス勤務」はお客様先に常駐している社員を対象としました。「在宅勤務」を行った品質・開発管理部長の藤川は、週1回の「在宅勤務」で社内研修資料作成や新卒社員採用の企画等の業務を行いました。また、業務に応じて開発拠点の社員や取引先とWeb会議による打ち合わせも行いました。「在宅勤務」の効果は、通勤時間が無くなり、時間の裁量度が増したり、休憩時間に家事が行えるので生活にゆとりが持てたことです。しかし、藤川にとって一番嬉しかったことは、「自宅に親がいることで子どもが安心して居る」ということでした。自宅のカレンダーにテレワークの日に印をつけると「家にお母さんが居ると嬉しい!」と子どもが心待ちにしているとのことでした。「サテライトオフィス」の活用では、お客様訪問



テレワークの日が待ち遠しい、藤川様親子

が多いエンジニアは一度会社に戻る必要がなくなり、業務効率が上がりました。期間中はサテライトオフィスにノートパソコンを預け、そのパソコンを自由に利用できるようにしたので、利便性も高めることができました。しかしながら、リモートアクセスやWeb会議の利用時にネットワークが切断することがあるため、安定したネットワーク環境の整備が今後の課題です。

モデル実証を終えて ワークスタイル変革の一步を踏み出せた さらなる個人・組織のワークスタイル変革へ

モデル実証事業への参加は、ワークスタイル変革の一步を踏み出す契機となりました。テレワークは、働き方を多様化して働きやすい会社にするだけでなく、個人と組織の生産性向上にも効果的な手段です。2018年4月からテレワークを本格導入して対象者を拡大します。実証期間中にあがった課題を解決しながら、さらなるワークスタイルの変革に取り組みたいと考えています。

働き方を多様化し、働きやすい会社へ

解決ポイント

ワークスタイル変革に向けてスタート 社員のみならず、その家族にも好評!

機密情報を扱う業界 労働環境の変革が課題

当社は、大手証券会社より独立して創業したシステムインテグレーターとして、証券・金融業界のお客様に40年にわたりトータルソリューションサービスを提供しています。証券会社の基幹業務をサポートする証券総合オンラインシステム「Dream-S」、コンプライアンス業務をサポートする売買審査管理システム「TIMS」等のシステムサービスでお客様のビジネスに貢献しています。証券・金融業のシステムは機密情報データを扱うため、システム開発は情報セキュリティ対策が十分になされた開発拠点で行われています。しかし、勤務地が開発拠点に限定されることにより、育児・介護が必要な社員にとって働きにくく、また、取引先訪問後に報告書作成のためだけに帰社しなければならないといった労働環境の課題を抱えていました。中長期事業戦略を立案する中で、労働空間の自由化・働き方の多様性を実現する「ワークスタイル変革」の必要性を再認識し、労働環境の課題を解決する一つの手段としてテレワーク導入を検討していました。そのような時に、モデル実証事業に参加する企業を募っていることを知り、応募いたしました。

情報セキュリティを重視した ルール・システム整備が必要

モデル実証事業に参加するに当たり情報セキュリティ

対策を講じて各種ルール・システムの整備を行いました。主な取組は、「情報管理ルールの見直し」、「社外利用をするパソコンにデータを残さないリモートアクセスシステムの導入」、「遠隔コミュニケーションをサポートするチャットやWeb会議の導入」、「働きすぎ抑止のための労務可視化ツールの導入」、「インターネットへの直接アクセス禁止設定、のぞき見防止フィルタ等のノートパソコンへの対策」等を行いました。導入したルール・システムの評価として、情報セキュリティについては、インシデントは発生せず合格でしたが、セキュリティ対策を厳しくした結果、システムの使い勝手が悪くなり、業務効率が低下したため課題が残りました。労務管理については、勤務状況が可視化されて適切な管理が行えました。コミュニケーション面では、Web会議により場所に依存しない会議が実現でき合格でしたが、チャットは利用する業務が少なく浸透しませんでした。今後のテレワーク拡大に向けて、「情報セキュリティ確保と業務効率」のバランスを取りながら推進したいと考えています。



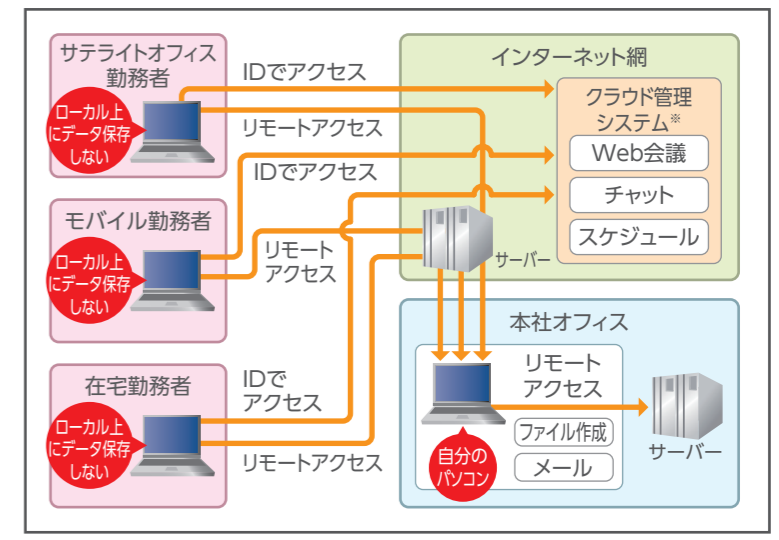
サテライトオフィスで打ち合わせしている金融システム事業部長 田中 寛 様
総合管理部 課長 田中 秀範 様

テレワークは社員の家族も幸せに

テレワーク実施者は20名。そのうち「在宅勤務」は、育児・介護が必要な社員、脚の不自由な社員、通勤時間が長い社員を対象としました。「モバイル勤務」は外出が



(左より) 品質・開発管理部 部長 加藤 大也 様
品質・開発管理部 主任 藤川 結季 様
品質・開発管理部 主任 峯崎 恵太 様



経営課題	導入概要	導入効果
<ul style="list-style-type: none"> ■ 中長期事業戦略で「ワークスタイル変革」の重要性を認識し、施策としてテレワーク導入を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報セキュリティを重視したルール・システム整備(リモートアクセス 他) ■ 「在宅勤務」は、事前に実施予定を共有し、施策としてテレワーク導入を検討 ■ 「モバイル勤務」「サテライトオフィス勤務」の活用を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 通勤及び移動時間の削減により時間の裁量度が増すとともに生産性向上に寄与 ■ 在宅勤務は子どもにも好評!

モデル実証企業からのアドバイス

- ◆ 会社に合ったテレワーク導入を
テレワークは、IT機器を導入すれば実施できるというものではありません。当社は業務上の必要性によりセキュリティを重視しました。労務管理、業務効率等から何を重視するかを決めて、自分たちに合った内容で導入することが大切です。
- ◆ 人は、会社の重要な財産
会社の財産は「人」です。人材確保のために労働環境を整備することは、大切です。テレワークは「業務効率を上げ、家族との時間を作る」社員と会社にとってよい手段の一つとわかりました。

■クラウドとは：インターネット上にデータを保存する使い方、サービスのこと。
※クラウド管理システム：クラウドで提供される業務管理サービスやチャットサービスなどの総称。